

愛知万博と新住事業と BIE「警告」

ある記者と大阪・関西万博について意見交換をしていた時、記者から愛知万博の海外パビリオンについて質問された。愛知万博については誘致段階から開催後までウォッチしてきたが、パビリオンについて記憶が残っていない。当時は万博会場移転が焦点で、あまり問題にもならなかったと思う。

朝日新聞 1 日に愛知万博を進めた神田真秋・前愛知前知事へのインタビューが掲載されていた。

愛知万博のパビリオン建設で混乱は

「大きな混乱はありませんでした。愛知万博では、こちらでパビリオンを建てて各国にお貸しし、内外装で個性を発揮してもらいました。大阪・関西万博のように各国が自前で建てる『タイプ A』のパビリオンはありません。奇をてらったものは放棄したんです」

神田知事は愛知万博について、なんだかんだと語っているが、どうも気になることがある。万博の主会場を「海上の森」から「愛知青少年公園」に変更したことについての発言だ。海上の森で絶滅の恐れのあるオオタカの営巣が発見されたことは語るが、その後の BIE（博覧会国際事務局）の警告には触れていない。

中日新聞 2000 年 1 月 14 日朝刊 1 面に、「愛知万博に BIE 警告 跡地利用は自然破壊」と大きな見出し記事が掲載された。これを契機に里山の開発計画は見直され、愛知万博は会場変更へと突き進むことになる。

中日新聞 2000 年 1 月 22 日に私の関連投稿が掲載されているので再掲する。

14 日付本紙が大きく報じたように、愛知万博への博覧会国際事務局（BIE）の警告は極めて重大な問題を提起している。本紙が入手した内部文書をいち早く報じたことに賛意を表したい。万博会場の跡地利用は自然破壊で開発至上主義だという BIE の主張は、実に説得力がある。

昨年末、新住宅市街地開発事業（新住事業）の都市計画案が強引に可決された。この新住事業は、海上の森を切り開いて宅地造成するニュータウン開発である。万博会場として先行利用されるため、この春にも事業着手される予定だ。

BIE の指摘を待つまでもなく、新住事業は自然破壊だけでなく、必要性や財政面から疑問視され、地元からも批判の声が上げられてきた。その声が世界的な環境団体に届き、BIE を動かすに至ったのである。

愛知県は BIE の警告を真剣に受け止めて、万博を成功させたいのなら、新住事業から直ちに全面撤退すべきだ。そして万博計画も再考すべきだ。愛知万博が新住事業と「心中」しないように。

最後の指摘は今読んでもグッとくるが、最近流行の「寒い」などと言われそうだ。

(2023 年 10 月 4 日)